
黒猫さんと白猫さん

狐麗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒猫さんと白猫さん

【Nコード】

N8123A

【作者名】

狐麗

【あらすじ】

ある時出会った二匹の猫の物語。

（前書き）

超短篇です。しかも文化祭の時に作った絵本の原案なので雑極まりないので、心の広い方だけ読んで下さい。

一匹の黒い野良猫がいました。

その黒猫はずっと独りぼっちでした。

ですがある時一匹の白猫が黒猫の前に現われました。

「黒猫さん？どうして貴方はいつも一人なの？」

と白

猫は黒猫に聞きました。

「別に他の子が寄って来ないだけだよ」

「ふうん、じゃああたしが傍にいても嫌じゃないのね！」

その日から黒猫の傍には白猫がいました

黒猫は最初は白猫の事を嫌がっていましたが、今では一緒にいるのが当たり前になってました。

「ねえ黒猫さん？もしあたしが遠いところへ行ってしまったら。

黒猫さんは悲しい？」

白猫が不意に静かに聞きました、それはとても悲しそうな声で。でも黒猫には意味が解りません。今まで一人だった黒猫は別れを考えた事がなかったからです。

「どうしてそんな事聞くんだ？僕がそんな事で悲しくなるわけないだろ？」

「そうだよね！なんでもないの！気にしないで？」

白猫はそれ以上何も言いませんでした。

次の日、黒猫は白猫を待ち続けましたけれど、どんなに時間が経っても白猫は現われません。

何時間も何日も同じ場所で白猫を待ち続けました。

そんな時毎日その光景を見ていた長老猫が黒猫に言いました。

「黒猫よ。彼女はもうここには来ないよ？彼女は彼女の家族と一緒に遠いところへ行ってしまうんだ」

白猫は黒猫と別れた後、人間の家族達と共に遠い町へと越してしまっただけでした。

黒猫は驚きました、今までもこれからもずっと一緒だと思っていた子が自分の知らない遠いところへ行ってしまうなんて信じられなかったのです。

黒猫は胸が痛むのを感じました。目から水が零れるのを感じました。でもそれが悲しみだというのは解りませんでした。

とその時

「黒猫さんは泣き虫だなあ。やっぱりあたしが傍にいないとダメだね！」

と声がしました黒猫が振り返ってみると。

「白猫さん？。。どうして！遠い所に行ったんじゃない？」

驚くのも無理はありません、長老がここにはもついないと言っていた白猫が隣でヘラヘラ笑っているのですから。

「だって、あたしには家族がいるのに黒猫さんに家族がないのは可哀相でしょ？だからあたしが黒猫さんの家族になるの！」

「意味わかんないよ。。。。」

ふう。。とため息を吐く黒猫は気付きました。白猫が隣にいと胸が痛いのも目から水が零れるのもなくなると。

「嬉しくないのお？」

「。。。。。。嬉しいよ」

「それでいいのです！」

白猫は嬉しそうに笑った。そして黒猫も。。。。

(後書き)

感想お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8123a/>

黒猫さんと白猫さん

2011年1月27日02時46分発行